

# 主要事業評価シート(第2次実施計画/R1・2・3年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	17076	学校図書館支援事業	課名	学校教育課 教育支援G
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	会計	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長	款	10:教育費
	施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開	項	08:教育研究費
戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト	目	01:教育研究費	
事業予定期間	H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等	子どもの読書活動の推進による法律	

② 目的・概要	対象	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者
	目的	児童生徒の読書量を増加させるとともに、読書の種類の幅を広げ、質を高める。児童生徒の主体的な情報活用能力を高めるとともに、児童生徒に家庭での読書習慣を定着させる。
概要	学校図書館情報システムを活用し、市立図書館・学校図書館のネットワーク化を図るとともに、全小中学校への学校司書の配置や学校図書館活用アドバイザーの派遣により、図書館環境整備と学校図書館を活用した授業を推進する。また、家庭での読書環境充実を図るため、幼稚園及び小学校でファミリー読書リレーを実施する。読書習慣の定着および読書の質を高めるため、読書チャレンジの冊子を配付する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理・更新</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> <li>○かめやまし読書チャレンジの配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> <li>○かめやまし読書チャレンジの配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置</li> <li>○学校図書館活用アドバイザーの派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレーの実施</li> <li>○かめやまし読書チャレンジの配付</li> </ul>	
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2回)小:川崎・井田川・東・西・関(週2日)他校(週1日)</li> <li>○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレー年間10週実施。市内幼稚園小学校で601家族が参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2回)小:川崎・井田川・東・西・関(週2日)他校(週1日)</li> <li>○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレー実施。市内幼稚園小学校で654家族が参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館情報システム管理</li> <li>○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2回)小:井田川(週3日)川崎・東・西・関(週2日)他校(週1日)</li> <li>○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣</li> <li>○かめやましファミリー読書リレー実施。市内幼稚園小学校で566家族が参加</li> </ul>	
	事業費	事業費	22,400千円	13,000千円	13,000千円
事業費	計画額	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源	22,400千円	13,000千円	13,000千円
事業費	予算額	事業費	19,450千円	12,200千円	13,600千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		一般財源	19,450千円	12,200千円	13,600千円
事業費	決算額	事業費 ①	19,000千円	11,894千円	12,932千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		一般財源	19,000千円	11,894千円	12,932千円
人件費	人件費	総人件費 ②	785千円	784千円	790千円
		一般職員	785千円	784千円	790千円
		所要人員	0.10	0.10	0.10
		会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
		総コスト(①+②)	19,785千円	12,678千円	13,722千円
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
④ 指標	①	名称 学校図書館を活用し、月5回以上授業を実施した学校数	計画値 12	13	14
		活動	実績値 14	14	14
			単位 校	校	校
	②	名称 児童生徒の読書数	計画値 8	9	10
		児童生徒1カ月の一人当たりの図書貸出冊数	実績値 8	9	8
		成果	単位 冊	冊	冊
	③	名称 授業時間以外での読書状況	計画値 小73中58	小77中63	小80中65
		平日授業時間以外での読書時間「読書を全くしない」以外の子どもの割合(全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙)	実績値 小83中60	小60中60	小76中59
		成果	単位 %	%	%

⑤ 事業の改善	【前回評価の対応方針の概要を記入】 教科等の学習において、教員が学校図書館を活用した学習を積極的に行う必要がある。また、児童の「かめやま読書チャレンジ」の取り組み方に差がある。
	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 学習指導要領の中にどのように読書活動の充実が明示されているのかを、図書館教育担当教員、司書、学校図書館活用アドバイザーで十分に理解した上で、今後どのように学校図書館を活用していくのがよいのかを考えて取り組みを行った。また、「かめやましファミリー読書リレー」や「かめやま読書チャレンジ」等、取組の継続と園や学校間での交流することや市立図書館との連携しての読書活動推進に取り組んだ。

評価		(判定)
⑥ 事業の評価	【計画どおりに実施できたか】 学校図書館情報システムにより、各種統計処理を円滑に行えた。また、学校司書の配置により、学校図書館の環境整備、図書館担当教員と連携した読書指導を行うとともに、学校図書館活用アドバイザーによる学校図書館活用指導への取組、各教科等の授業に関連された図書の選定・収集等を行った。さらに、「かめやま読書チャレンジ」「かめやましファミリー読書リレー」に4幼稚園、11小学校が取り組み、「かめやまファミリー読書リレー」については566家族が年間10週程度取り組んだ。	A 計画どおり実施できた
	【成果は順調に上がったか】 学校図書館情報システムの運用が定着し、学校司書の配置についても、複数学級の学校にはすべて、週2回以上配置され、専門職としての力を発揮し、子どもたちへの支援を行うことができた。また、各校で学校図書館活用アドバイザーによる授業が行われたことで、子どもたちの言語能力や情報活用能力の育成につながった。「かめやま読書チャレンジ」の取組により、様々な分野の本を読むことにつながっており、「かめやましファミリー読書リレー」のアンケートでは、「以前に比べて、家庭で読書をする時間が増えた」「家庭でのコミュニケーションの時間が増えた」の肯定的意見が75%を超え、すべての項目において昨年度を上回った。	B まずはまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	【課題は何か】 読書量、読書冊数に個人差がある。特に中学生の読書習慣において個人差が大きい。引き続き、教科等の学習において、教員が学校図書館を活用した学習を積極的に行う必要がある。	次期実施計画への方向性 <input type="checkbox"/> 継続（拡大） <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 継続（縮小） <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	【課題に対し、どのように対応するか】 今までの取組の継続に加え、市立図書館との連携も深めていくとともに、学校司書及び学校図書館活用アドバイザーと図書館教育担当教員のさらなる連携を図る。また、「学校司書会」や「図書館情報協議会」等で、学校司書や学校図書館活用アドバイザー、図書館教育担当教員が学校図書館教育における良い取組を紹介して各校での取組に活かしていく。	
	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 読書に親しませることで、読書習慣の定着を図り、「子どもたちが読書を楽しむこと」「子どもたちの読書の幅を広げていくこと」が期待できる。また、学校間の活動の交流や小中学校の情報交換を進め、先進的な学校図書館の取組事例をモデルにしたり、より具体的な取組方法を交流したりして、各校での実践に活かせる。	
対応時期 令和4年度		

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 前田 亜弓
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 宇野 勉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A	A	A
	成果	A	A	A	A	B

■令和3年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		13,600 千円
内訳	令和2年度からの繰越額	千円
	令和3年度の最終予算額	13,600 千円
	令和4年度への繰越額	千円